

# 戦国時代の息吹を感じる 天然の要塞 岐阜城



岐阜城は、金華山の山上の天守部分と山麓の館部分を中心とした山城です。戦国時代には、天守と館部分はいくつかの山道で結ばれており、山中の要所や見通しのきく場所には砦がありました。金華山は、標高329メートル、山の北側には長良川が流れており、東から南側にかけては支障がせり出しており、西側には扇状地が広がるこの自然地形が天然の要塞として機能していました。岐阜市では、その金華山の発掘調査が行われており、昨年5月には金華山の北西部のエリアで新たな石垣が発見されました。また、11月には二ノ門の付近の登山道に隣接する場所を調査し、鉄製の矢尻が発見されました。今回は、今まさに戦国時代の新たなページが紐解かれている岐阜城について調べてみました。

## 歴史の分岐点に 岐阜城あり

岐阜城は、信長が命名する以前は稲葉山城と呼ばれていました。稲葉山は、伊奈波神社の社地であったと考えられており、古くから神聖な山として人々の信仰を集めていたようです。



伊奈波神社旧跡

1201年、二階堂行政により稲葉山に築城したのが最初と言われています。

1539年頃、斎藤道三は、父の長井新左衛門尉の跡を継ぐと主家の長井氏をのっとり守護代の斎藤氏の名跡を継ぎます。道三が稲葉山城を築城するにあたって、現在の場所に伊奈波神社を移したと言われています。

1567年、織田信長は、道三の孫 斎藤龍興を破り、城下町の「井口(いのくち)」を「岐阜」と改め

## 難攻不落？ の岐阜城

岐阜城は攻めるのに困難なイメージですが、1601年に廃城になるまでに数度も落城しています。「美濃を制する者は天下を制す」と言われるように、多くの武将にとってもぜひ手に入れたい魅力的な要地であったと言えますが、岐阜城は実は籠城に不向きな城であったとも言われています。

その理由として、硬いチャートの岩を加工するのが困難であったため「井戸がなく貯水した雨水を使っていた」



貯水井戸

「平場が少ないため大勢の兵士が駐屯できない」と山頂部で大勢の兵士が生活をしながら、長期間城を守ることが難しかったためです。



硬い岩盤

ました。中国の文王が八百年の天下泰平の世を築いた岐山の「岐」と孔子が生まれた曲阜の「阜」に由来します。信長は、この地を拠点にして天下統一に乗り出しました。1600年、関ヶ原の戦いでは、



織田信長像 崇福寺蔵

岐阜城はその前哨戦の舞台となりますが、城主の織田秀信は、石田三成が率いる西軍につきました。東軍の福島正則と池田輝政らが攻めてくるなか織田秀信は自ら出陣しますが、現在の岐南町で東軍を迎え撃つものの敗退。秀信は急いで岐阜城に戻るも一日で落城しました。関ヶ原の戦いで勝利した徳川家康は、岐阜城を廃城とし、加納城の築城を命じます。岐阜城を解体して資材を運び出し、加納城を建築する際の材料としたと言われています。



## 岐阜公園から山頂へ行く5つのコース

### めい想の小径(水手道)

距離：2,300m レベル★★★★★

途中で百ヶヶ峰や長良川の眺望が良いポイントがあります。  
最初はなだらかですが、2/3を過ぎたあたりから石段や急な斜面が出てきます。



### 馬の背登山道

距離：1,100m レベル★★★★★

その名の通り、ゴツゴツした岩肌の急な斜面が多数あります。  
雨上がりの跡など、湿った時には危険。山登りの装備で行きましょう。



### 金華山ロープウェー

所要時間：約3分 レベル★★★★★

急ぎの方に最適。山頂駅から天守まで歩いて10分程度。  
三重の塔を横目に見ながら前は金華山、後ろは長良川の景色を堪能できます。



### 百曲り登山道

距離：1,100m レベル★★★★★

ロープウェーの山頂駅とリス村の間に出ます。  
数か所急なところがあるため、中学生以上が好ましいと言われています。



### 七曲り登山道(大手道)

距離：1,900m レベル★★★★★

ファミリー向け。整備された登山道で後半は石段が続きます。  
岐阜城時代の大手道と言われ、ロープウェー開通までは一番多く利用された道です。



### 二ノ門(虎口跡)

門跡向って左側と右側の石垣



### 二ノ門下

二ノ門東側の石垣。(上：調査中、下：調査後)発掘調査がされた後、2段の石垣を残して埋められました。



### 堀切(切通)

尾根が遮断されていて、敵の攻撃を足止めできます。



### 天守と上台所を結ぶ通路の石垣

山頂部に残る石垣の中では最も規模が大きく良好な状態。  
石垣の上部下部ともに通路があるため、上からでも下からでも眺めることができます。長さ約30m、高さ約7m。二段構えの石垣です。



### 岐阜城天守入口

天守東側の石垣。角部分は近世の城郭に多く見られる算木積みを連想させます。角ばった石が整然と積まれており強固かつ見た目も美しい。



### 鼻高ハイキングコース沿い

めい想の小径との分岐から鼻高ハイキングコースへ5分ほど下ったなだらかな山道沿いにあります。



### 裏門周辺

めい想の小径と鼻高ハイキングコースの分岐周辺が裏門。



### 一ノ門(虎口跡)

通路横の巨石。現在は倒れている巨石も通路沿いに並べてあったと考えられます。



谷側の石垣



# 岐阜城山頂部の石垣を見てみましょう

山頂部周辺の石垣。城郭の要所にある入口(虎口)付近に石垣が多数見受けられます。

## 2018年に発見された矢尻と石垣

**矢尻** 鉄製の矢尻(長さ14.6cm、幅2cm)が見つかった。1600年の関ヶ原の戦いの前哨戦「岐阜城の戦い」で使用されたものである可能性が高いとされています。



**石垣** 金華山北西部の登山道以外の立ち入り禁止エリアで、新たな石垣が発見されました。赤川洞(赤ヶ洞)において、谷筋を護岸する巨石石組みが、天守から北西の尾根上の中腹において、新たな石垣群が、それぞれ確認されました。全山が要塞化されていた可能性があり、これまでの岐阜城の概念を考え直させる大きな発見とされています。



赤川洞の巨石石組

中腹の石垣群

今もなお、歴史的な新たな発見がされている金華山に、いま一度、登ってみませんか。

昨年、岐阜県・岐阜市・県内8市町・岐阜観光コンベンション協会等によって「岐阜県大河ドラマ『麒麟がくる』推進協議会」が設立されました。

## 観光客増加の前に

岐阜県は光秀を生かして県全体を盛り上げていく取り組み、岐阜市は岐阜公園を中心にドラマ館の整備が予定されています。



明智光秀画像(伝)「東京史料編纂所」

## 斎藤道三と織田信長に仕えた武将？明智光秀

本能寺の変で信長を討伐した明智光秀が、歴史上の表舞台に出てきたのは、1560年代後半と言われ、それ以前については正確には分かっていません。

出自に関しては、光秀の周辺に妻木氏・可児氏など東美濃の地名を名字に関する人たちがいる



可児市の明智城址

こと、光秀の親戚が美濃にいたことなどから光秀が美濃出身の可能性が高く、現在の可児市瀬田長山にある美濃守護家の土岐氏一族の明智城が最も有力とされています。

光秀は、戦国武将としてのみならず、本能寺の変の直前に「ときは今あめが下知る五月哉」と詠んだり、信長からは茶器をもらい茶の湯開催の許可を与えられるほど、和歌や茶道に通じて教養が高い文人でした。

2020年に放映されるNHK大河ドラマ「麒麟がくる」では、

## 道三や信長も住んでいた 山麓城主居館跡

岐阜城の歴代城主の館は、金華山の西麓にある槻谷にあります。発掘調査から、この地形は斎藤氏の頃に造られ稲葉山城を拠点とし、麓に本格的な城下町を設けました。その後、信長が改修をし、関ヶ原の戦いの前哨戦まで使われていた事が分かりました。

信長時代の館は、巨石列、石垣、巨石組の3種類の石組みを用いました。金箔瓦を使用した中心建物、巨大岩盤を背景にした庭園、茶座敷のある高層建物の地区からなり、橋や回廊によって繋がれていました。

現在は、発掘調査のためシートが掛けられ公開されていない部分もありますが、日本遺産信長居館発掘調査案内所では発掘状況や信長時代の居館が丁寧説明されています。



斎藤道三(利政)画像「東京史料編纂所」

## 居館部分周辺を観光する場合の無料案内

①ボランティアガイドの活用 岐阜市まちなか博士認定試験に合格した「岐阜市まちなか案内人」が説明してくれます。ガイド待機場所：岐阜公園内 ※平日は実施していない事もあります

私がオススメする3つの見どころです！



岐阜市まちなか案内人 近藤新八さん

### ①見渡せる眺望

山頂から濃尾平野を一望いただければ、信長公がこの地を選んだ理由が分かっていただけではありません。今の長良公園辺りに土岐氏の守護所があり、そこを通過する五畿七道のひとつ東山道が、長良川のすぐ北側を通過し、京都へと通じていました。



### ②美しい山城

山麓の館はお姫様達が住んでいた館や政治をする役所、山頂には天守があります。中世では山城で生活していましたが、近世では姫路城・名古屋城と平地に建てられており、岐阜城は城郭史の変遷を理解できます。



### ③魅せる石垣

つい最近では、山の中腹で新たな石垣が発見されるなど、城郭構造の発掘が進んでいます。岐阜城は、小牧山城で試みた石垣をさらに拡大し、本格的な城郭構造の一つに位置付けたと言われています。



## ②現地体験タブレット「信長公居館 高精細CGの現地体験」

現地体験タブレットは、岐阜公園内にある「日本遺産・信長居館発掘調査案内所」で借りることができます。

岐阜市信長公450プロジェクトで開発された、CGを駆使した当時の居館や発掘調査についての映像を、8か所のポイントで見ることができます。また、案内所では、天目茶碗・かわら等の出土遺物や金箔瓦の復元品が展示されています。

閉館日 火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

貸出時間 9時～16時(貸出しは15時まで)

利用時間 60分以内

※雨天時は貸出中止

